

附属学校園の近況

前附属学校部長

石川 宏

十四年三月退官

「子どもの発達研究センター」が四月からスタートしました。このセンターは大学全体の共同利用機関ですが、附属学校園とはとくに深い関係があります。組織としては、「幼児教育・子育て支援」「子ども臨床」「教育みらい開発」の三部門から構成されています。活動内容は、子どもの発達過程の観察や研究、それに基づく子育て支援や臨床サービス、そして教育プログラムの開発なのですが、専門的な職業人に研修の機会を提供することも検討されています。というわけで、学内外の研究者、教育関係者、院生等の出会いの場となるでしょうし、大学と附属四校園を教育研究面で緊密に結びつけるブリッジになることがとりわけ期待されます。なお、名称の「子ども」は、ここでは乳幼児から高校生までを包含していることを申し添えます。

本年二月に、附属小学校で「教育実指指導研究会」が開催されました。小学校内部にある「児童教育研究会」の主催によるものですが、この研究会は大正七（一九一八）年設立という古い歴史をもち、機関誌「児童教育」を長年にわたって定期的に刊行してきました。こうした歴史と実績があるか

らでしようか、毎年全国各地から多数の方が小学校の研究会には参集されます。その第六十四回に当たる本年二月二十一日と二十二日の会には、二日間で延べ五五〇〇人ほどの参加者がありました。今回の研究テーマは「関わりあって学ぶ教育内容・方法の開発」でした。これは文部科学省から研究開発校の指定をうけ、附属小学校がいま附属幼稚園と連携して取り組んでいる課題にほかなりません。参加者は初等教育関係者とくに公立小学校の先生方が多く、そうしたプロフェッショナルの厳しい視線のもとに授業を受ける小学生たち（その様子を写真でご覧ください）は、例年のことながら、さぞかし緊張したことでしょう。



教育実指指導研究会

アフガニスタン教育大臣来学

附属学校部長

田宮 兵衛

平成十四年四月十七日（水）午後二時、アブドゥル・ラスール・アミン アフガニスタン教育大臣が、ジョン・V・クイック 秘書官、オガイ・パトン エネスコ広報誌編集委員と共に本学に來学されました。文部科学省からは、御手洗文部科学審議官、岡谷国際協力政策室長等が随行しました。

一行は、先ず本学附属小学校、中学校、高等学校の授業を見学し、附属小学校では、アフガニスタン教育大臣から本学児童にベストが贈呈され、本学児童からは鉛筆・ノートの他にアフガニスタン児童への手紙が大臣に手渡されました。次いで、大学会議室で附属学校関係者と懇談後、第一会議室で「アフガニスタン女子教育のための女性教員支援研修プログラム」について、プログラム策定委員等と意見交換を行いました。



お英の水女子附属小学校生徒と握手する
アフガニスタン アミン教育大臣 2002.4.17